

農業革新支援スタッフ(農業技術課) JA営農指導と 県普及指導活動との連携

JA営農指導と県普及指導活動は、相互に連携しながら地域農業の振興、農村の活性化等に取り組んでいます。中でも生産者に対する技術指導は、指導能力の向上や意識の統一が重要であり、JA山梨中央会やJA全農やまなしと協力しながら、合同研修会を開催しています。

今年度はすでに「モモの病害虫防除」「ブドウのジベレリン処理適期の把握」等について開催しました。また、ブドウ品種「甲斐のくろまる」や試作が始まっている「甲斐ベリー3」等の県オリジナル品種は、栽培技術の確立が望まれており、重点的に取り組む計画でいます。



土壌肥料研修会 (H28)

研修会は革新支援スタッフを中心に、試験場の研究員なども講師となり、最先端技術について情報提供を行うとともに、JA営農指導員からは各地域の状況など、きめ細かな情報交換が行われ、充実したものとなっています。

今後も果樹、野菜、作物、花等の栽培技術や土壌管理等の一般管理を含め、合同研修会や検討会を開催し、指導者の技術統一を図っていきます。



第1回果樹研修会(病害虫の検討等)



農業大学校の本館

専門学校山梨県立農業大学校 平成30年度の 入学生を募集します

山梨県立農業大学校は、21世紀の農業・農村社会を担うにふさわしい実践力と経営感覚を備えた農業経営者の育成を目指しています。



学校説明会(本校にて) 養成科・専攻科共通

第1回	6月17日(土)	10時~12時	学校説明・見学会
第2回	7月29日(土)	10時~15時	学校説明・体験学習
第3回	8月19日(土)	10時~15時	学校説明・体験学習
第4回	9月9日(土)	10時~12時	進学相談会
第5回	10月28日(土)	10時30分~12時	進学相談会(収穫祭)

入学試験	科	願書受付期間	試験期日	合格発表日
推薦	養成科	平成29年9月14日(木)~9月27日(水)	10月11日(水)	10月25日(水)
一般	養成科 専攻科	平成29年11月9日(木)~11月22日(水)	12月6日(水)	12月20日(水)
		平成30年1月18日(木)~1月31日(水)	2月14日(水)	2月23日(金)



果樹の管理実習



花きの管理実習

問い合わせ先 〒408-0021 北杜市長坂町長坂上条3251 <http://www.pref.yamanashi.jp/noudai/>
TEL 0551-32-2269 FAX 0551-32-2034



山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

編集/発行 山梨県農政部農業技術課 住所 〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1
Tel.055-223-1619 Fax.055-223-1622
URL <http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/>
E-mail nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

農業革新
支援スタッフ
(作物)

パン用小麦「ゆめかおり」の品質向上に向けて

県内では、新しい小麦品種「ゆめかおり」の作付面積が年々拡大しています。「ゆめかおり」はパン加工等に適した硬質系の品種です。

パン加工に用いる小麦粉はタンパク質含量が高いことが必要ですが、これまで製パン業者等が求めるタンパク質含量に達していない状況も見られました。

このため、農業革新支援スタッフと中北地域普及センターでは、JAと連携して収量の確保とタンパク質含量向上のための施肥について巡回指導を行いました。

指導は、茎立期と出穂期の2回に分けて行いました。ほ場によって生育に差があるため、生育や栄養状態を調査しながら、施肥量について指導を行いました。

今回の指導が小麦の品質向上につながり、県民の皆様にも県産小麦を活用した美味しいパンがお届けできればと期待しています。



出穂した「ゆめかおり」



巡回指導の様子



農業革新
支援スタッフ
(果樹)

モモの病害虫診断サポート システムを活用してください!

果樹を栽培する中で、病害虫対策は重要な管理作業の一つです。通常は、防除暦を参考に防除を行ってありますが、時には作業中に見たことがない病害虫を見つけることもあります。

これまでは、普及センターやJA等の指導機関に持ち込み、診断してもらうことも多かったと思いますが、果樹試験場ではパソコンや携帯端末で利用できる診断システムを開発し、農家の皆さんが直接利用できるものとなりました。

昨年の「ブドウ編」に続き、今回は「モモ」の病害虫として病害17種、害虫26種を取り上げており、わかりやすいように病害虫ごとに複数の写真を掲載しています。各病害虫のページでは、発生時期や発生しやすい条件などのコメントも表示されます。携帯端末であれば現場のモモ園で、現物と比較し確認することもできます。

本システムの操作は、項目を選択し画面をタッチ(クリック)するだけの簡単なものですので、普段パソコンや携帯端末を使われている方であれば簡単に操作でき、診断に役立つと思います。

本システムは無料で利用できます。入手方法については、最寄りの農務事務所(地域普及センター)や病害虫防除所及び地元JAに問い合わせ下さい。また、今後はスモモ、オウトウの病害虫診断システムの開発も予定していますので、完成次第、農家の皆様に活用して頂けるように準備を進めていきます。



目次の画面(文字や写真に触れることで詳細な解説ページに移動)



『新規就農者育成に向けた取り組み』 ～地域の担い手育てます！～

当普及センターでは、新規就農者の就農定着に積極的に取り組んでいます。北杜市高根町においては、JA梨北高根生産部会、JA梨北、北杜市、県農業大学校などの関係機関と連携して担い手プロジェクトチームを結成し、遊休資材の斡旋や農地の情報提供等、新たな担い手の確保に向けた支援を行っています。また、1年単位で賃貸できる「トレーニングハウス」を活用して研修生を受け入れています。

このような研修生の受け入れ活動の結果、12名の野菜生産者が誕生し、地域の担い手となっています。今年もアグリマスターの指導のもと、新たな担い手1名がトレーニングハウスでトマトの栽培を開始しました。

今後も研修生を幅広く受け入れるため、県外の新規就農者相談会への参加を提案する等、積極的に担い手の確保を支援し、産地の維持・発展に取り組んでいきます。



担い手プロジェクトチームによる定例会の様子



トレーニングハウスでのアグリマスターによる研修の様子



峡東地域の果樹農業が 日本農業遺産に認定されました！

平成27年10月から山梨市、笛吹市、甲州市の峡東3市、ならびに山梨県が関係団体と一体となり、峡東地域の果樹農業を「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」として、農業遺産の認定に向けて取り組んできました。農業遺産には国連食糧農業機関（FAO）が認定する「世界農業遺産」と農林水産大臣が認定する「日本農業遺産」があります。それぞれ世界及び日本において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を認定するもので、今回の申請

では日本農業遺産に認定されました。今後は日本農業遺産を活用した施策の推進、理解醸成、情報発信を行いながら、引き続き世界農業遺産の認定に向けて取り組みます。



日本農業遺産認定授与式



春はモモの花が咲き乱れる果樹地帯

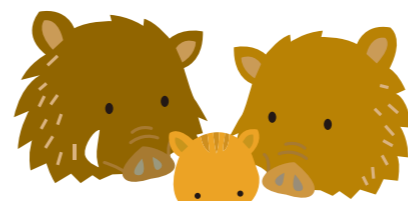


日本では、現在も伝統的で多様な農林水産業が営まれ、美しい田園風景、伝統ある故郷、助け合いの農村文化が守り続けられています。これら、将来に受け継がれるべき伝統的な農林水産業システムを広く発掘し、その価値を評価するため創設された制度です。

峡南地域の獣害軽減に向けて ～電気柵「獣堀くんライト」現地講習会の開催～

当普及センターでは、県総合農業技術センターで開発された多獣害対応電気柵「獣堀くんライト」の地域への普及定着を図るため、設置相談、設置後の維持管理に係る点検指導に取り組んできました。

この度、身延町にて新たに設置を行う畑の園主、農協、総合農業技術センターの協力のもと、地元農家など約20人が参加し、設置方法や保守管理のポイントなどについて、現地講習会を開催しました。



獣堀くんライトの設置実演



獣堀くんライトの概要説明

これまでの実証展示により獣害防止効果が認識されたことから、峡南地域では獣堀くんライトの導入が増加しており、農協の設置施工請負体制の整備や町の資材費補助等により、26カ所、計約1.5haの農地に設置されています。

設置後の補修・維持管理がポイントとなりますが、今後も各町や農協と協力し、獣害軽減に取り組んでいきます。

レタスのゴールデンウィーク出荷に向けた支援！



講習会の様子

昨年11月に、県内20番目となる「道の駅つる」がオープンして半年が経過しました。この道の駅は、郡内地域を中心とした産地交流の場として位置づけられており、運営会社は、道の駅つる生産者組合と連携し、都留市の情報発信と都留周辺地域の地産地消の拠点となるよう取り組んでいます。



生産者組合では、普及センターの支援のもと、総合農業技術センターの開発した「年内施肥マルチによるレタスの4月収穫技術」を活用し栽培したところ、5月2日に収穫ができました。収穫されたレタスは品質も良く、ゴールデンウィーク中に道の駅つるで販売され売れ行きは上々でした。

今後も生産者組合と連携しながら、栽培の効率化や更なる品質向上を進め、道の駅つるを核とした地産地消の推進に向けた支援を行っていきます。



年内施肥マルチによるレタス実正圃の様子